



熊本県における 医療的ケア児等の災害対策

～県内における避難訓練の実施について～



熊本県医療的ケア児支援センター
統括コーディネーター 社会福祉士 宅島 恵子

第6回九州小児在宅医療支援研究会
令和7年7月19日（土） 熊本大学病院

1、お話の前に

2、実際の避難訓練その2

- ・人工呼吸器装着児（者）
- 主催：ケース1（県南の市町村）
共催：ケース2（玉東町）

3、まとめ



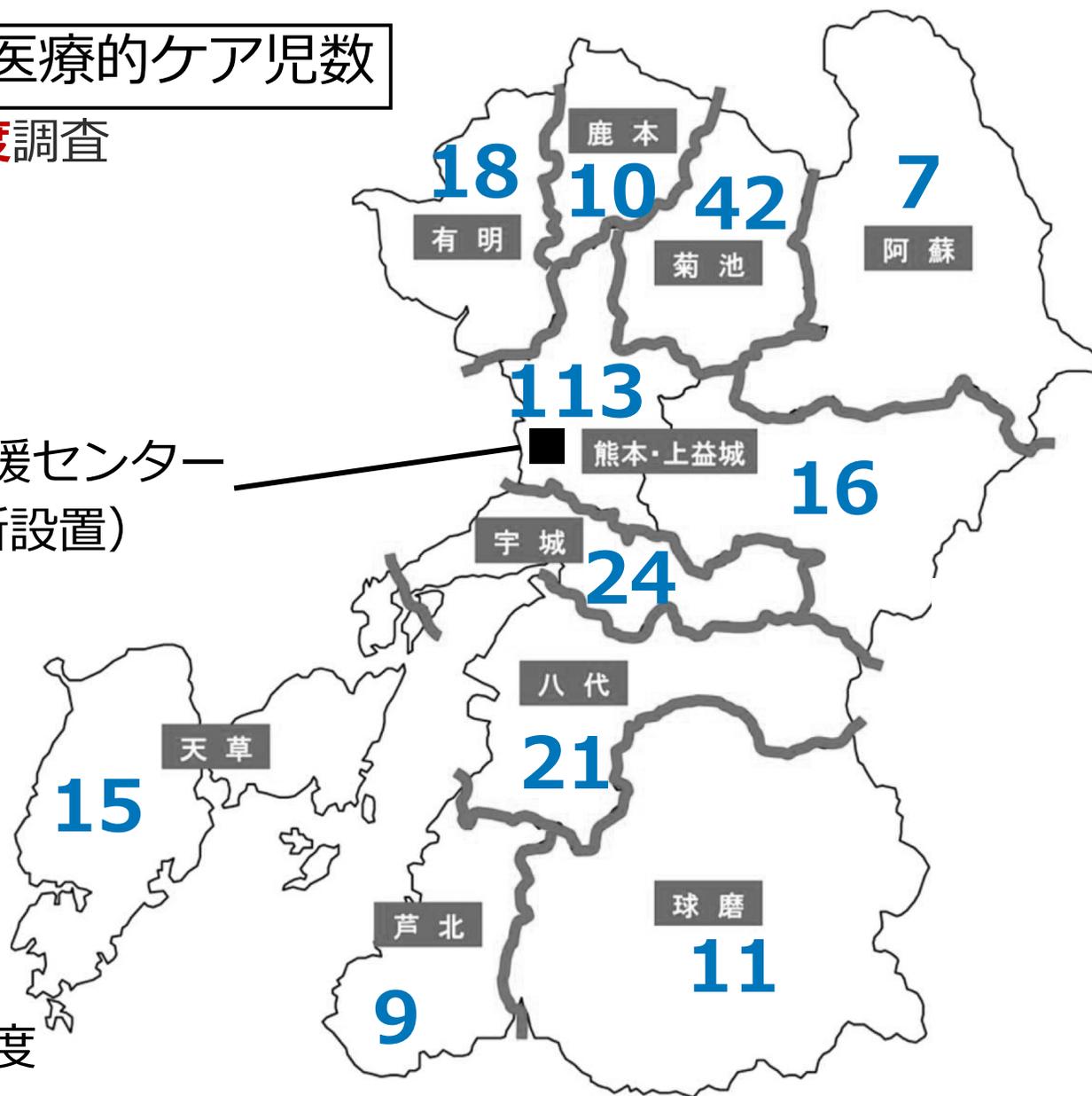
熊本県内の各圏域別の医療的ケア児数

熊本県／熊本市 令和3年度調査

286名

(全国で約2万人)

熊本県医療的ケア児支援センター
(熊本市内に1ヶ所設置)



熊本県／熊本市 令和7年度

- 医療的ケア児の人数
- 避難行動要支援者名簿登録数
- 個別避難計画数

➡ **調査集計中**

障がい第701号
令和7年(2025年)7月11日

各市町村障がい福祉所管課長 様

熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局
障がい者支援課長
(公印省略)

令和7年度(2025年度)市町村医療的ケア児支援関係課研修会の開催について(通知)

平素から、本県の障がい福祉行政に御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和3年(2021年)9月に施行された医療的ケア児支援法(令和3年法律第81号)において、医療的ケア児支援に係る地方公共団体の責務や、保育所の設置者、学校の設置者等の責務が規定されたことを受けて、各市町村におかれても、医療的ケア児支援に携わる関係者が連携した支援体制の整備に一層取り組んでおられることと存じます。

このたび、この取組みをさらに促進するとともに、市町村における関係部署の皆様を支援するため、下記のとおり研修会を開催いたします。

つきましては、貴課の関係職員の方の出席について、御配慮いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、お手数ですが、貴市町村の母子保健、保育所、災害対策の各所管課ならびに教育委員会に対し、同様の開催のお知らせを県庁各所管課から送付しておりますが、貴市町村に配置された医療的ケア児等コーディネーターをはじめ、関係課に対しても、貴課より御周知いただきますよう併せてお願いします。

また、貴課におかれましては、貴市町村の下記4の出席者を取りまとめるうえ、下記6によりお申込みいただきますようお願いいたします。

さらに、当日は市町村ごとにグループワークを実施しますので、関係課担当職員等と同室で御参加いただきますよう、併せてお願いします。

記

- 1 名称 令和7年度(2025年度)市町村医療的ケア児支援関係課研修会
- 2 日時 令和7年(2025年)8月27日(水)午後1時30分~午後4時30分
- 3 開催方法 オンライン(zoom)
※アドレス、ミーティングID、パスコードについては、後日、御案内します。
・ZOOM利用時の表示名は「市町村名(+所属名)」をお願いいたします。

4 参加対象

障がい福祉・母子保健・保育所・災害対策(防災含む)の各所管課職員、教育委員会職員、市町村に配置された医療的ケア児等コーディネーター、その他関係課職員
※今回、「災害」をテーマにしていますので、防災士等を配置されている市町村におかれましては、当該職員の方の参加について御配慮願います。

5 研修内容

- (1) 講話 「地域防災の中で考える医療的ケア児の災害対策
~地区防災計画と個別避難計画、防災さんぽ~」
講師 熊本県医療的ケア児支援センター 副センター長 小篠 史郎 氏
- (2) 行政説明
(予定) 県庁 障がい者支援課、子ども未来課、特別支援教育課、危機管理防災課、健康福祉政策課
- (3) グループワーク
テーマ「さあ、一緒に作ってみよう!個別避難計画」(各市町村ごとに実施)
・後日、ワークシートを送付する予定です。
- (4) 取組み事例の紹介
(予定) 熊本県医療的ケア児支援センター、玉東町保健こども課

県内45市町村の4~5課が 一堂に会する研修会 「市町村医療的ケア児 支援関係課研修会」 開催



1、お話の前に

2、実際の避難訓練その2

- ・人工呼吸器装着児（者）
- 主催：ケース1（県南の市町村）
共催：ケース2（玉東町）



3、まとめ

主催：ケース1（県南の市町村） ・人工呼吸器装着児（者）地震想定

ご心配



- 1、医療的ケア児（者）の避難訓練の優先順位が低い
- 2、自宅待機が一番いいのではないか
- 3、何かあった時の責任の所在。医療のことはわからないということ
- 4、避難所には多くの方が集まるので長期滞在は難しい
- 5、医療機関ではない避難先を選ぶ理由
- 6、連絡網の作成（個人情報保護への対応）
- 7、所属を超えた取組みは負担が大きい

対面会議：5～6回

個別避難計画作成や当日のスケジュール
電話やメールも含めると数十回

準備期間：2ヶ月

参加者 57名

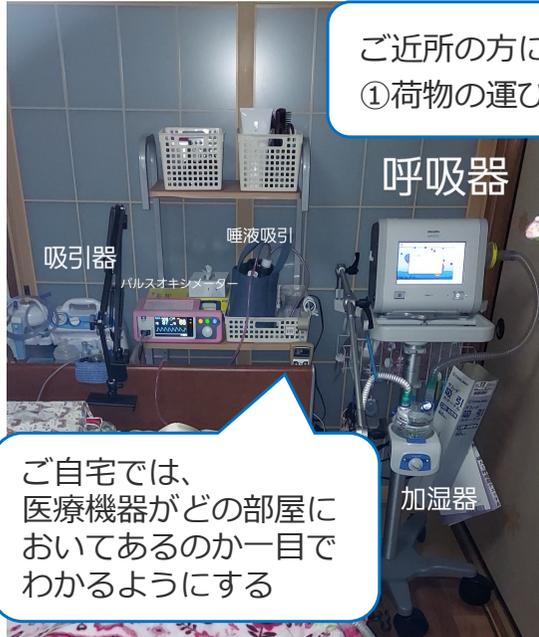
熊本県行政、医療的ケア児等コーディネーター、在宅診療医、
訪問看護師、基幹病院、相談支援専門員、市医師会
市町村行政（校区担当保健師、障がい福祉担当課、防災担当課 等）
校区の自治会（近所の方、自治会長、防災担当、民生児童委員 等）
地域包括支援センター、市議会議員 等

主催：ケース1（県南の市町村） ・人工呼吸器装着児（者）



2024年11月 熊本県 県南市町村での避難訓練（熊本県医療的ケア児支援センター主催）

主催：ケース1（県南の市町村） ・人工呼吸器装着児（者）



ご近所の方にご依頼したいのは
①荷物の運び出し、運び入れ

呼吸器

吸引器

唾液吸引

パルスオキシメーター

加湿器

ご自宅では、
医療機器がどの部屋に
おいてあるのか一目で
わかるようにする



避難場所でご依頼したいのは
①電源の確保②スペースの確保
③行政へ連絡



段差に気をつけて

自宅からの避難をZoomにてス
クリーンにて放映。振り返り
は、総勢57名の参加者と意見交
換会をした



ご家族

「ご近所に助けを求めらるっていうの選択肢って
いうのが今までなかったが、この訓練を通じて、
実はそこが一番大事だということがわかった」

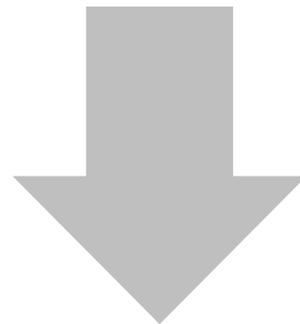
参加者

「こんなに荷物が多いとは思わなかった。」
「家族と地域の連携、日頃からの関係構築
が緊急時の対応に重要であることが確認された」
「歩ける範囲にて、異なる避難先を設定し、毎年避難訓練を
行うことが必要」

主催：ケース1（県南の市町村） ・人工呼吸器装着児（者）

- 1、歩ける範囲にて（車は使わずに）
- 2、複数の避難先を設定して
- 3、毎年、継続的に避難訓練を行うことが必要

大規模避難訓練は
継続して開催することは難しい



もっと小規模で出来る避難訓練はないだろうか

共催：ケース2（玉東町） ・ 人工呼吸器装着児



避難経路の途中で、段差などの確認



玉東町役場にて振り返り会
総勢38名の参加者と意見交換会

ご家族

「きっかけは、医療的ケア児の避難や支援の受け方がテーマだった。支援を受けるだけでなく、逆に私たちができる事もあると思うのでこのつながりを通してお互い様で助け合って生きていけたらいいと思う。」

参加者

「段差だったり、道の幅だったり、歩かないとわからない所がたくさんあった」「地域に支援が必要な方がいらっしゃるということを知った」「お互いさまという事でこの避難訓練を通じて地域づくりが進んでいくことを願う」「必要なのは①電源や水の確保②スペースの確保③行政へ連絡」

1、お話の前に

2、実際の避難訓練その2

- ・人工呼吸器装着児（者）
- 主催：ケース1（県南の市町村）
共催：ケース2（玉東町）



3、まとめ

- 1、医療的ケア児のご家族には、「力を貸してほしい」とご家族から声をあげてもらおうよう促す
- 2、支援者は、ご家族が声をあげやすいように、平時から地域の皆さんと顔の見える関係の構築をしておく
- 3、事前に地域の皆さんと 継続した 避難訓練をしておくこと

ご清聴有難うございました